

平成21年 6月 1日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18720088

研究課題名（和文） 中国西南ナシ（納西）族の言語伝承および文字の研究

研究課題名（英文） The Study of Oral Tradition and Scripts of Naxi, Southwest China

研究代表者

黒澤 直道（KUROSAWA NAOMICHI）

國學院大學・文学部・准教授

研究者番号：3038398

研究成果の概要：中国西南部に居住するナシ（納西）族は、独特の文字で書かれた宗教經典によって知られてきた。しかし、ナシ族の言語の研究はこれまで十分とは言えず、トンバ經典の言語的側面に対する研究も不十分であった。そこで本研究では、現地調査によってナシ語の言語資料を収集し、それを基礎として宗教經典の新たな研究方法を考案した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	500,000	0	500,000
2007年度	500,000	0	500,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1500,000	150,000	1650,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：雲南省、麗江市、ナシ族、ナシ語、トンバ教、トンバ經典、宗教經典、音声言語。

1. 研究開始当初の背景

中国西南部に居住する人口約 30 万人のナシ（納西）族は、独自の宗教と象形文字による經典を持つことで知られている。「トンバ（東巴）文字」と呼ばれる独特の象形文字と、それによって書かれた「トンバ經典」は、ナシ族を特徴づける重要な文化であるとされ、その研究はこれまでになされたナシ族研究の中でも中心的な課題として位置してきた。

しかし、膨大な漢字研究の蓄積を背景とした中国における研究では、トンバ經典の研究は、その文字についての研究が多くを占め、文字以外の言語的な側面（特にその音声言語）に着目した研究は意外なほど少ない。さ

らに、本来ならば言語的側面の根底に据えて比較の対象とすべきナシ族の言語、ナシ語の研究も決して十分とは言えない。そのため、近年中国大陸で公刊された全 100 巻に上る『納西東巴古籍訳注全集』（雲南省社会科学院東巴文化研究所編訳、雲南人民出版社、1999-2000）においても、言語的側面に着目すると、その記述には様々な問題が見られる。

また、トンバ經典で用いられるトンバ文字は、音素、音節、形態素、語といった言語の各要素とは十分に対応しない、一見「原始的」な文字であり、その読み書きは經典の内容を暗記したナシ族の祭司（トンバ）にしかできないとされてきた。従って、近代以降に行わ

れたトンバ經典の記録や解釈は、基本的にはトンバの朗誦を記録したものである。近年、現地ではトンバが高齢化し、次々と世を去っており、今後はこれまでのようなトンバの朗誦に依拠した記録方法は不可能になることが予想される。現在、中国や欧米の図書館や研究施設には、合計2万冊を超えると言われるトンバ經典が保存されているが、經典を読み書きできるトンバが全て世を去れば、これらの解読も不可能となる。それゆえ、今後のトンバ經典の研究には、このような状況の変化に対応した方法上の転換が必要である。

2. 研究の目的

これまでに行われてきたトンバ經典の研究において不足してきたのは、ナシ族が日常的に用いるナシ語を基礎とした、その言語的な側面に着目した研究である。上述したように、中国における研究では、トンバ經典は古文字で書かれた文献として見られることが多く、漢字研究の蓄積を基礎に、その個別の文字に対してアプローチしたものが多かった。一方、中国国外の研究では、宗教としてのトンバ教の研究などが見られるものの、少数民族独自の言語が壁となり、トンバ經典の言語的側面に対する十分な研究は困難であった。

そこで本研究では、ナシ族の言語であるナシ語を研究の根底に据え、研究代表者がこれまで行ってきたナシ語の習得の成果を生かし、ナシ語の基礎資料を充実させることにより、トンバ經典に対する新たな研究方法を提示することを試みる。これは同時に、古めかしい經典の世界のみに留まることなく、より一般的なナシ族の言語文化全体の中でそれを捉え直す試みでもある。

なお、本研究では、現在、中国の民族分類において「ナシ族」とされている集団のうち、伝統的にトンバ經典を持つ「ナシ」の言語(ナシ語西部方言)を調査・考察の主たる対象とする。一方、民族分類で「ナシ族」とされながら、その言語(ナシ語東部方言)や文化(母系制、訪妻婚など)が「ナシ」とはかなり異なる「モン(摩梭)」については、今後の検討課題としたい。

3. 研究の方法

上述の目的を達成するために必要なのは、ナシ族が日常的に用いているナシ語の言語資料の収集と、そのデータベース化である。そこで本研究では、まず第一に、現地の研究者などを訪問し、すでに中国において公刊されているナシ語による出版物の収集を行い、さらにそれらの電子テキスト化を進める。このデータは、ナシ語の単語や熟語の意味や、

文法を検討する上での基礎資料とする。

次に、ナシ族居住地での現地調査により、ナシ語(西部方言)内部の複数の方言について調査を行い、基礎語彙の音声について記述を行う。この記述は、他の地域の発音との差異が明確になるように、一覧表の形にしてデータ化する。

以上のデータを活用して、トンバ經典の言語的な側面の検討を行う。特に、これまでに記述や注釈がなされてきた複数の資料を相互に比較することで、それぞれの問題点を明らかにし、さらに經典の文字の研究方法について検討する。複数のトンバ經典の音声的記述を比較する際には、本研究で作成するナシ語内部の方言的差異の記述データを参考にすることができる。トンバ經典は、ナシ族居住地の複数の地点を出身地とするトンバによる朗誦を、それぞれ記録したものであり、多くの場合はそれらの地域の方言的特徴が未整理のまま記述されている。本研究で作成する各地のナシ語の音声と比較した一覧表を用いれば、異なる音声を示す語や形態素であっても、それが同一のものであることが確定できるからである。

4. 研究成果

(1) トンバ經典の記述や注釈を除く、日常で用いられるナシ語による出版物は、2007年までに33種(48冊)が公刊されており(ただし、その一部にはトンバ經典のテキストをローマ字で記したものを含む)、さらに現地で発行されたナシ語による新聞や、オランダ人宣教師による聖書の一部のナシ語訳もある。これらはナシ語のローマ字表記によって書かれたテキストであるが、それぞれの発行部数が少なく入手しにくいものが多い。本研究では、ナシ族居住地の現地調査の期間、ナシ族出身の研究者などを繰り返し訪問し、ナシ語による新聞の一部を除いてほぼその収集を完了した。そして、それらの目録と概要を紹介し、それぞれの特徴や背景について考察を加えた(雑誌論文⑤)。

(2) ナシ語による出版物に記されたナシ語のテキストは、いずれもナシ語のネイティブスピーカーの手になるものであり、日常で話されているナシ語の有用な資料とすることができる。本研究では、このうちナシ族の口頭伝承を記した資料や、小学校用の教科書について、OCRソフトを用いて電子テキスト化を行った。これらの資料からは、ナシ語の単語や熟語についての用例を集めることができる。本研究では、特にナシ語の熟語について用例を収集し、さらに、現地でナシ語のネイティブスピーカーに対する聞き取りを行い、熟語全体の意味や熟語を構成する語・形態素の意味を確認し、それらを記述する研究

を行った(雑誌論文③、⑥、⑧)。これまでになされたナシ語の研究においては、熟語に焦点を当てたものはほとんど見られない。しかし、ナシ語で書かれたテキストを読解する際には、語・形態素が連続した熟語の意味を把握することが不可欠である。

(3) ナシ語内部の方言的差異については、ナシ族居住地の現地調査において、合計 23 人(19 地点)のインフォーマントから、それぞれ約 660 語の基礎的な語彙について音声データを得、それらの記述を行った(ただし、インフォーマントの状況により、これよりも語数が少ない場合がある)。これらのインフォーマントの出身地は、麗江市古城区(旧・大研鎮)、現在は古城区に含まれている七河、大東、玉龍ナシ族自治県の白沙、黄山、長水、貴峰、大具、宝山、奉科、魯甸、迪慶チベット族自治州シャングリラ県(旧・中甸県)東南部の三壩、東壩、洛吉、同州維西リス族自治県の塔城、巴迪、同州徳欽県の佛山、チベット自治区マルカム県の塩井である(ただし、これらの調査自体は、それぞれの地点から近い市街地で行った)。

これらのデータは、方言間の相違が分かるよう一覧表の形にしてデータ化した。このうち、ナシ族居住地の中心である麗江市古城区(旧・大研鎮)の方言については、以前に研究代表者が行った調査結果に、さらに新たな資料と検討を加え、音韻体系の全体像と先行研究との相違を明らかにした(雑誌論文①)。これ以外の方言については、今後さらに検討を加えたいうえで、その結果を公表する予定である。

以上のナシ語の方言データからは、ナシ族居住地の中心である麗江市古城区および玉龍ナシ族自治県(この二つが旧・麗江ナシ族自治県に相当する)の平野部においては、各地のナシ語の方言的差異は微細なものに留まること、一方、玉龍ナシ族自治県北部の山間部と、それに連続する迪慶チベット族自治州シャングリラ県の東南部や、同州北西部の徳欽県とそれに接するチベット自治区側のナシ語の方言には特徴的な音声が見出された。

また、各地のナシ語の音声的特徴は、これまでに公刊されたトンバ經典の記述や注釈に見られる音声の特徴と一致するものがあり、トンバ經典の記述が、各地のナシ語の方言的な特徴を色濃く反映していることが確認された。これらのデータは、今後、トンバ經典の記述・翻訳資料や、トンバ經典の読音を基礎として記述された音韻論などの先行研究を検討する際に、それらと比較するデータとして役立つと考えられる。

(4) トンバ經典の音声言語については、上述

したナシ語の方言についてのデータを基礎として、經典のテキストを相互に比較する研究を行った。ナシ族の創世神話である『ツォバトゥ』には、すでに公刊されているだけで 10 種の異なるテキストがあり、記されている内容は大筋では同一でありながら、それぞれの文字や音声は、その記述や解釈の細部において様々な違いが見られる。

本研究で行ったテキストの相互比較によって、これらの記述や解釈の差異には、主として次の三つの状況が認められた。それは、1. 記録者・翻訳者によって語の区切り方が異なり、それに伴って解釈の相違が見られる場合、2. 同一の音声である部分に対して記録者・翻訳者によって複数の解釈が存在する場合、3. おそらく本来は一つであった、発音がわずかに異なる複数の語に対して、記録者・翻訳者によって異なる解釈がなされる場合、である(雑誌論文⑨)。

(5) トンバ經典の文字については、上述したナシ語の基礎資料についての理解をもとに、様々な試行錯誤を行った結果、複数のトンバ經典の文字テキストを並列させ、これら全体における文字の出現頻度を数値化することで、文字テキストの「骨組み」を抽出する方法を考案した。

ほぼ同一の内容を記した複数のトンバ經典の文字テキストを相互に比較すると、トンバ經典の文字には、それらのテキストのほとんど全てに書かれる文字と、一部のテキストにしか書かれない文字があることが見出される。本研究では、『ツォバトゥ』冒頭の 9 種のテキストを対象として、その音声言語を軸としてテキストの同一部分を並列し、テキストに現れるそれぞれの文字の出現回数をカウントした。本研究では、便宜的に 7 つ以上のテキストに出現するものを「確定的」な文字と考え、それ以下のものを「非確定的」な文字として区分した。そして、「非確定的」な文字を取り除いた「確定的」な文字の列を、トンバ經典の文字テキストの「骨組み」として提示した。

このような「骨組み」を抽出する方法は、トンバ文字の不確定的な性質からこれまで不可能とされてきた經典の解読や識別に寄与する可能性がある。この方法により、經典の「骨組み」のデータを蓄積してゆけば、全く未知のトンバ經典に出会ったときに、それが何の經典であるかを確定する手掛かりになるはずである。たとえ完全に同じ文字テキストではなくとも、例えば『ツォバトゥ』に特有の「確定的」な文字の列が含まれていれば、その經典は『ツォバトゥ』である可能性が極めて高くなるからである(雑誌論文④)。

なお、この研究成果については、一部に補足・修訂を行い、2009 年 7 月に中国雲南省昆

明市で開かれる第 16 回国際人類学民族学会議 (IUAES) の分科会、「納西族研究新視野」(New Horizon for Naxi Studies) において発表する予定である。

(6) 以上に述べた成果のほか、本研究では、現地調査で得た資料や知見をもとに、2000 年以降のトンバの人数・分布などの現状を報告したほか (雑誌論文⑦)、中国で「トンバ文化」と呼ばれている、トンバやトンバ経典を中心とした文化が、ナシ族の文化全体に大きな影響を与えている問題についても考察を加えた (雑誌論文②)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

- ① 黒澤直道、「ナシ (納西) 語大研鎮方言の音韻体系—先行研究との比較を中心に」、『アジア・アフリカ言語文化研究』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)、第 77 号、2009 年発行予定、査読有。
- ② 黒澤直道、「ナシ族におけるトンバ (東巴) の諸相—その核としての文字経典」、『まれびと論の地平—東アジアの神観念と祭祀』、岩田書院、2009 年発行予定、査読無。
- ③ 黒澤直道、「ナシ (納西) 語熟語の基礎的研究—形容詞・その他の熟語編、および補編」、『Walpurgis2009』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要)、p21-32、2009 年、査読無。
- ④ 黒澤直道、「ナシ族トンバ経典文字テキストの基礎的研究—出現頻度に基づいた「骨組み」の抽出」、『國學院雑誌』、第 110 巻第 3 号、p1-17、2009 年、査読有。
- ⑤ 黒澤直道、「ナシ (納西) 語による出版物について」、『國學院大學紀要』、第 47 巻、p1-13、2009 年、査読有。
- ⑥ 黒澤直道、「ナシ (納西) 語熟語の基礎的研究—副詞熟語編」、『Walpurgis2008』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要)、p35-50、2008 年、査読無。
- ⑦ 黒澤直道、「ナシ (納西) 族トンバ (東巴) 教の現状について—2006 年の調査から」、『國學院雑誌』、第 108 巻第 6 号、p1-10、2007 年、査読有。
- ⑧ 黒澤直道、「ナシ (納西) 語熟語の基礎

的研究—動詞熟語編」、『Walpurgis2007』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要)、p43-57、2007 年、査読無。

⑨ 黒澤直道、「中国少数民族宗教テキストの一研究—ナシ族のトンバ経典」、『日本文化と神道』(國學院大學)、第 3 号、p509-524、2006 年、査読無。

[学会発表] (計 2 件)

① 黒澤直道、「ナシ語資料の現状と研究の展望」、仙人の会、2007 年 6 月 17 日、法政大学。

② 黒澤直道、「ナシ語の学習とナシ族の言語伝承」、中国民話の会、2006 年 11 月 19 日、法政大学。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒澤直道 (KUROSAWA NAOMICHI)
國學院大學・文学部・准教授
研究者番号：3038398